

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上策等＞

現在本校は、どの場面でも落ち着いた活動ができる状態にあり、概ね授業規律も守られている。しかし、生徒が互いに試行錯誤したのち、考えを発表したり、学習する中で疑問を持ち、主体的にそれを解決したりする態度を育てることが今後の課題である。生徒が主体的に学ぶためには、教員が今まで以上に教材研究をしたり、授業の組み立て方を工夫したりして、学習した後に生徒が「わかった」「できた」という達成感を持ち、「面白い」「次も学びたい」という意欲がわく授業やアクティブ・ラーニングによる授業、理数に係る問題を解決する力を育成する授業を展開することが大切である。そこで、指針を「よい授業」の4つの因子と捉え、これまで日々取り組んでいたことを体系化し、成長段階に応じた指導方法を確立し、安定的に質の高い授業の展開を目指すこととした。

- ・昨年度、各教科で「4つの因子」の項目から努力目標を選択し、因子ごとに実践を行い、生徒のアンケート結果の分析、目標の修正等を行ったが、今年度は、それをもとに、全員が公開授業を行う。効果の高かった指導方法に関して、職員間で共有化を図る。
- ・グループ学習や発表の基本的手順について検討し、「東中『学び』のスタンダード」の確立に向けて、全教員で共通の手法で実践を行う。
- ・授業後の自己評価カード等、振り返りの手法について、因子ごとに研究を行う。
- ・校外の研究発表の場に可能な限り教職員を派遣する。
- ・理科・数学については、特に、生徒が「やってみたい」「調べてみたい」と思えるような課題の設定や、興味・関心を高めるための導入の工夫について、全教員で研究に取り組む。
- ・研究の成果を発表する。

＜本年度の振り返り＞

教科の枠を越え、因子ごとに目標を設定し、研究に取り組むことにより、どの教科にも共通する授業づくりのポイントを明確にすることができた。また、特別支援学級での授業づくりのポイントを効果的に取り入れることは、全ての因子の向上に有効であることに気づくことができた。今後、さらに研究を深めていくにあたり、各因子から課題として取り組んでいく必要があるのは、次のような点である。

- ・活動の重点を意識させる掲示の工夫。[授業マネジメント]
- ・繰り返しや振り返りの時間を効率的に確保するための工夫。[基礎アップ]
- ・本時のねらいを明確にした上での効果的なICT活用と、そのタイミングの選択方法についての工夫[授業スキル]
- ・目的に沿った話し合い活動を充実させるための、ペア、グループ、学級全体等の形態の工夫。[児童生徒の活動]

また、学校評価から、家庭学習の習慣が十分に身につけていないという問題点が明らかになった。今後は、家庭学習の習慣の定着のための取組を、学校全体で推進していく必要がある。

